

電力システムシステムで適用が進むイントラネット技術

Intranet Technologies Adopted in Power Systems

河合 三千夫
KAWAI Michio

最近の社会情勢は、“IT革命”と言われるほどIT(情報技術)が全盛期を迎えています。業種や分野を問わずに、EC(電子商取引)、CALIS(コンピュータによる調達と後方支援、あるいは高速の商業取引)、BtoB(企業間の取引)、BtoC(企業と消費者間の取引)などに代表されるインターネットを活用した新しいビジネス形態やコンテンツサービスが実現されてきています。これは、ITの中核を成すインターネットが、これまで大きな壁となっていた“時間と距離の壁”を取り払ったことにより実現できたわけです。電力会社においても例外ではなく、業務支援システム(電力IT)はもとより、お客さま対応サービスのいっそうの向上、新規事業などの領域にもITを適用することにより、経営改革を進めようとしています。

一般的には、インターネットは非常に汎用的であり、ネットワークさえ整備されれば、だれでも、どこでも使えるという利点がありますが、一方で、リアルタイム性、高信頼性が要求されるミッションクリティカルな部分には、まだまだ解決すべき課題があります。当社は、現在のIT全盛期の到来を予測し、“ミッションクリティカルな部分にも適用できるイントラネット技術”(以下、ここではイントラネット技術と略記)を3年前から開発してきました。インターネットの利点をすべて享受できるとともに、リアルタイム性と高信頼性を実現したものであり、徐々に各電力会社に採用していただきつつあります。

この2年の間には、IT革命の急速な進展、電力の一部自由化といった大きな環境変化が起こっています。大きな環境変化のなか、当社の開発したイントラネット技術を電力流通設備に適用することによって、設備投資抑制に寄与すると同時に運用効率向上が図れます。また、IT関連システムとの関係も容易であり、柔軟なシステム構築が可能になります。今後は、イントラネット技術を適用したシステムが急速に進展していくと考えています。

今回の特集では、当社が開発したイントラネット技術を適用した、保護・制御、監視・診断、IT応用システムなどに関して、最新のシステム事例の紹介も含め、今後の電力システムシステムのあるべき姿を提案いたします。